

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

学務委員会

(責任者名) 野口 紗生

(役職名) 学務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		対象科目である「現代社会におけるAI」は、卒業必修の科目であるため、入学者全員が履修登録をしている。履修者数111名のうち、96名が単位取得をした。もう一つの対象科目「データ・AI活用基礎実践」は、履修者49名のうち40名が単位取得をしている。両科目の単位を取得し、プログラムを修了した学生は36名となった。
学修成果		対象科目である「現代社会におけるAI」及び「データ・AI活用基礎実践」の各授業の具体的な到達目標と授業計画はシラバスに明示し、公表している。修得率はそれぞれ86.4%及び81.6%であり、シラバスに記載の到達目標は概ね達成しているといえる。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		本学では全科目に対して授業評価アンケートを実施している。 対象科目のうち「現代社会におけるAI」では、「講義の内容を理解することができたか」という質問に対し78.3%が「概ね理解できた」または「理解できた」と回答した。 もう一つの「データ・AI活用基礎実践」では、「授業の到達目標をどの程度達成できたか」という質問に対し、90.9%が「ほぼ達成できた」もしくは「十分に達成した」と回答した。 両科目ともとても高い結果となった。 学生の回答は担当教員も確認できるため、必要に応じて授業改善に役立てている。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		「現代社会におけるAI」では、「講義の受講をほかの学生に勧めたいか」という質問に対しては、75.6%が「やや勧めたい」もしくは「勧めたい」と回答している。「総合的にこの講義に満足したか」という質問に対しては、81%が「概ね満足した」もしくは「満足した」と回答している。 「データ・AI活用基礎実践」では、「授業に満足しているか」という質問に対しては、95.4%が「やや満足している」もしくは「満足している」と回答した。 高い満足度により、ほかの学生への推奨度も高いことがうかがえる。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		入学者の22.5%がプログラムの修了要件となる科目を履修しており、今後この人数が増加していくよう科目の内容を定期的に確認し、見直しの継続をしていく。 また、今後リテラシーレベルに認定されることができれば、学生へのPRも効果的にいえることから、履修者数も上昇していくと思われる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>令和7年度から始まったプログラムのためプログラムを修了し卒業した者がいない状況であり、進路、活躍状況についてはまだ確認できない。修了・卒業者が出た後、進路、活躍状況を確認してから、企業等の評価を受ける予定である。</p> <p>本学と関係のある企業、商工会議所等にプログラムの内容・手法等に関する意見を定期的にいただき、ブラッシュアップをしていく予定である。</p>
<p>教理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>機械学習やテキストマイニングツールの実習を通じて技術を身近な道具として理解し、理論と実践の両面から学問的知見を深める。また、AIがもたらす利便性の裏にある倫理的課題（プライバシー保護、アルゴリズムの偏り、判断の責任の所在等）についても深く考察を行う。AIエージェントやロボットが普及する未来において、技術を正しく制御し、人間が守るべき倫理とは何かを、実習や対話を通じたアクティブ・ラーニングによって探究する。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業において、ICT（Googleフォーム等）を活用した双方向型授業を行う。毎時、学生の意見や回答をリアルタイムで収集・共有し、それに基づいた議論を展開する。</p>